

森にやさしい「木製治山ダム」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、環境や生態系にやさしい「木製治山ダム」について、ご紹介します。

日本一の森林面積率を持つ高知県では、平成12年、“人と木の共生”を目指して「木の文化県構想推進アクションプラン」を策定し、公共事業での木材利用に積極的に取り組んでいます。

木製治山ダムは、この取り組みの一環として、高知県須崎林業事務所が(社)高知県山林協会の技術協力を得て、四万十川源流の東津野村に整備したもので、県内では2基目です。

木製治山ダムとは、その名の通り、山を治めるための木製のダムで、土砂の流出を防ぎ、浸食により荒廃の兆しのある溪流など危険山地の崩壊を未然に防止します。

木製ダムは、これまでのコンクリート製に比べ、コストは3～4割高で、水質汚染となる防腐剤を使用していないので、耐久年数も劣り10年くらいです。

しかし、杉の木枠をブロック状に組み合わせ、中に現場周辺の石を詰め、この重量で土砂の圧力を受ける構造なので、施工が比較的簡単で、雨の多い高知県では工期の短縮が図れる利点があります。

また、木材と石材というもともと森林にある材料を用いているため、動植物が生息・生育するようになり、周辺の環境に調和していきます。

森林を間伐して、なおかつその間伐した木材を治山ダムに使う有効利用し、山を守る。木材は循環可能な資源であり、環境や生態系にやさしい自然素材です。

さらに、このような木製治山ダムが普及すれば、間伐材の有効利用につながり、地元の木材を使用するため、地域の森林整備が促進され、中山間地域の活性化にも貢献していくと考えられます。

●問い合わせ 高知県須崎林業事務所 TEL.0889-42-2371

URL <http://www.pref.kochi.jp/~seisaku/susaki/frame.html>



▲東津野村新田の五藤次山



▲周辺の環境に調和



▲見学会(記念植樹)

Topics

第8回道の駅を結ぶ「四万十源流ダム湖畔めぐりサイクリング」

大正町「轟公園」から橋原町「太郎川公園」まで、ダムと自然の調和、森林や道路の果たす役割、大切さなどを学びながら、丸一日かけてサイクリングします。

■開催日/8月23日(土)(申込締切は8月12日(金))

■参加資格/小学5年生以上(先着150名まで)

●問い合わせ/橋原町教育委員会 ☎0889-65-1350・大正町役場建設課 ☎0880-27-0114